

シネマ

シネラ・ニュース
March.2001 No.56

特集

高峰秀子映画特集

特集

カメラマン田村正毅

特別企画

60's~70'sアートフル・ムービーの全貌 ~失われた映画を求めて~

特別企画

サイレント映画 弁士・楽団付き上映 VOL.5「瀧の白糸」

3



明るい未来を夢見て、それぞれの思いをタイムカプセルに詰め込む。
夢を見るのが難しいこの時代、あなたはどんな思いを未来に託しますか？
『60's~70'sアートフル・ムービーの全貌』 イラスト&文:山下良平

特集 カメラマン 田村正毅

田村正毅の代表的な作品を特集

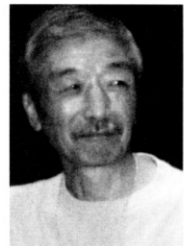
会期：14日(水)～18日(日)

観覧料：500円(大人)／400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)

●定員制、各回入替制。●チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。
●福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

故・淀川長治さんは『ニッポン国古屋敷村』を見た後、「土の匂いがする、ホントの土の匂いがする」と言われたそうです。匂いや、空気の流れや、ヒトやモノの変化する温度といった目に見えないものまでもフィルムに映し撮ることができ稀有な存在として、カメラマン・田村正毅の名前が挙げられるでしょう。彼が60年代後半からはほぼ20年をかけて小川紳介監督とともに作り上げた「三里塚シリーズ」や山形の農村を撮り取めた作品は、ドキュメンタリー映画の在り方を根本的にくつがえし、世界中に衝撃を与えました。また一方では劇映画の撮影にも数多く携わり、監督の思い描くイメージを的確に具体化しつつ、それ以上の「目に見えない何か」を画面に導き入れる手腕が見る者を圧倒しました。一定のスタイルに固執することなく常に新しいものを創造してゆくその手腕は、世界的に高い評価を受けています。

今回の特集は、彼の膨大なフィルモグラフィの中の一の一部にすぎません。しかし、田村正毅というカメラマンが映し撮った画面に流れる風や草木の匂いを感じとり、それを通して映画における「撮影」とは何かを少しでも知ってもらえることができるのではないのでしょうか。



14水 17土 竜馬暗殺

監督：黒木和雄 出演：原田芳雄

慶応3年、坂本竜馬が京都河原町で暗殺されるに至った最後の3日間を描いた作品。江戸末期が舞台の時代劇だが、同時に70年代という時代の諸相をも映し出している。撮影と照明のコラボレーションがすばらしい。

1974年/35ミリ/モノクロ/118分/映画同人社=ATG



14水 19:00 三里塚 辺田部落

監督：小川紳介

新東京国際空港の建設に反対し、立ち上がった農民たちを描く「三里塚シリーズ」第6作。長期化・日常化した闘争のなか、辺田部落では一人の青年の自死が大きな波紋を投げかける。カメラは次第に闘争から村の世界へと入り込んでゆく。

1973年/16ミリ/モノクロ/146分/小川プロダクション



15木 16金 さらば愛しき大地

脚本・監督：柳町光男 出演：根津甚八

農業からダンブカーの運送屋に転業した幸雄は、事故で子供を亡くしたあと、愛人とともに家を出る。東京から戻ってきた弟との間には争いが絶えず、幸雄はやがて覚醒剤に溺れていく…。荒れささび墮ちていく人間と風景を鋭利に捉えた作品。

1982年/35ミリ/カラー/134分/プロダクション群狼=アトリエカン



15木 18:00 ニッポン国古屋敷村

監督：小川紳介

'80年の夏、東北地方は深刻な冷害に襲われる。山形で稲作をしながら映画を準備していた小川プロは、古屋敷村を訪れ冷害の原因を究明しようとする。詳細な観察記録やミニチュア制作といった自然への科学的アプローチとともに、村に生きる人々の姿を生き生きと映しとる。

1982年/16ミリ/カラー/212分/小川プロダクション



18日(日)14:00

田村正毅×青山真治 (カメラマン) (映画監督)

上映作品(15:30より)

路地へ 中上健次が残したフィルム

監督・構成：青山真治

故・中上健次が生地の路地を撮った短いフィルムが発見された。映画監督・青山真治はその断片に、自身の抱く「紀州」像を重ね合わせ再構築する。脚本家・映画監督井土紀州の声と、田村正毅の捉える風景によって、熊野が重層的に浮かび上がる。

2000年/35ミリ/カラー/64分/スローラーナ

1939年青森生まれ。人形映画製作所を経て62年岩波映画に入社。64年フリーとなる。68年「日本解放戦線・三里塚の夏」で一立ちし、以後小川紳介監督と共に製作した数々の作品は世界に衝撃を与える。また多数の劇映画も手がけ、一貫して傑作を生みだし続けている。「EUREKA」では独特の色調をたたえた「クロマティックB&W」を考案、内外の絶賛を浴びた。

田村正毅

1964年北九州生まれ。立教大学卒。劇場映画デビュー作「Helpless」(96、日本プロフェッショナル映画大賞受賞)が大反響と共に迎えらる。代表作に「WILD LIFE」(97)「SHADY GROVE」(98)など。映画評論も手掛ける理論派として知られている。最新作「EUREKA(ユリイカ)」は2000年カンヌ国際映画祭で国際批評家連盟賞とエキュメニク賞を受賞。

青山真治

17土 15:00 SELF AND OTHERS

監督：佐藤真

1983年にわずか36歳で早世した写真家・牛腸茂雄。彼のゆかりの地を訪れ、残された草稿や手紙と写真をつなぎ合わせることで、「彼が写真表現を通して追求してきた(もうひとつの身振)」を映画にとり込みたい」と願う佐藤監督渾身のドキュメンタリー。

2000年/16ミリ/カラー/53分/ユーロスペース

参考上映 わが愛北海道

監督：黒木和雄 撮影：清水一彦

1962年/35ミリ/カラー/49分/岩波映画



本作は田村正毅が岩波映画製作所で撮影助手をしていた頃の作品。2年間の岩波時代のうち丸1年、この作品に関わっていたという。発展する産業を中心に、北海道の全貌を四季にわたって紹介する記録映画。監督・黒木和雄とは後の「竜馬暗殺」で再会。



18日 11:00 Helpless

脚本・監督：青山真治 出演：浅野忠信

愛する者を失った3人の若者の哀しみや虚無感をバイオレンスに交えて描く。組長の死が信じられず、組長を捜しながら衝動殺人を繰り返す安男。安男を慕う健次は、安男の妹ユリと共に足取りを追うが…。青山監督デビュー作。細やかなカメラワークが光る。

1996年/35ミリ/カラー/80分/WOWOW=バンダイビジュアル



16金 14:00 旅するパオジャンフー

監督：柳町光男

歌や芸を披露しながら薬を売り歩く、台湾のパオジャンフーたち。葉家の長男アホンは、月琴を弾き語る老人や蛇使いの一座に出会う中で、パオジャンフーとして生きる決意を固めてゆく。葉一家を中心に、3つのパオジャンフーの物語を交錯させ、詩情に満ちた映像で描く。

1995年/35ミリ/カラー/95分/SONY



特別企画 60's~70'sアートフルムービーの全貌 ~失われた映画を求めて~

会期：20日(火・祝)～24日(土)

観覧料：800円(大人)／600円(大学生・高校生)／400円(中学生・小学生)

フリーパス券：4,000円(大人)／3,000円(大学生・高校生)

前売り券：「3回券」2,000円(大人)／1,500円(大学生・高校生)

「1回券」700円(大人)／500円(大学生・高校生)

※前売り券は、ローソンチケット(092-844-5945)、

チケットぴあ(092-708-9999)で発売。

●定員制、各回入替制。●福岡市在住の障害者の方、及び福岡市在住の65才以上の方は400円。(手帳の提示が必要です。)

主催：福岡アートフルムービー実行委員会、福岡市総合図書館

24日(土)13:30

松田政男(映画評論家)

×

田辺泰志(映画監督・脚本家)

参考上映作品

「梶」1960年/25分/16ミリ

監督：足立正生ほか(日大映画)

「む」1960年/16分/16ミリ

監督：田辺泰志(京大映画)

田辺泰志(たなべ やすし)

1940年倉敷生まれ。1960年、京都大学進学後、映画研究会で仲間たちと実験映画「む」をつくる。1970年、劇映画「空、みたか?」を倉敷で自主製作。脚本家としても活躍。

松田政男(まつだ まさお)

1933年台北生まれ。60年代後半から映画批評を執筆。70年代初頭、第二次「映画批評」を編集する。著書「風景の死滅」「不可能性のメディア」「映画はアクチュアル」他。

イメージの氾濫

program

20(火・祝) 11:00

24(土) 16:00

「銀河系」1967/75分/16ミリ 監督：足立正生

福岡市出身の映像作家、足立正生による超実験映画。当時、アートシネマのメッカとなっていた新宿「銀座」のこけら落とし作品。観念的かつ神話的なイメージの氾濫には、多くの足立正生作品の原点を観ることができる。創造の初源的欲望に貫かれたビュアな傑作。

「おかしさに彩られた悲しみのバラード」1968/12分/16ミリ 監督：原将人
「20世紀ノスタルジア」の原将人監督が若干16歳で撮り、「フィルム・アート・フェスティバル東京1968」で見事最優秀賞に輝いた傑作。ロケ地は60年代末の青山通り。

音楽

program

20(火・祝) 13:30

22(木) 14:00

「…だからここに来た! 全日本フォークジャンボリーの記録」

1971年/90分/ビデオ 監督：中本雄雄、野村光由

1970年岐阜県の中津川で開催された「全日本フォークジャンボリー」の様子を記録した作品。岡林信康&はっぴいえんど、五つの赤い風船、浅川マキといったフォーク界を代表するアーティストたちの共演。

ハプニング&パフォーマンス

program

20(火・祝) 16:00

22(木) 16:30

「味覚革命論・序説」1975年/50分/16ミリ 監督：瓜生良介(発見の会)
実験演劇の元祖というべき「クリエイティブアクション・発見の会」が製作した異色の映画。様々な場所で鍋をつつくというパフォーマンスと、演劇的センス・フィクションの合体。

「ザ・ウォーキング・マン」1969年/15分/16ミリ 監督：岩田信市(ゼロ次元)
松本俊夫監督「薔薇の葬列」にも登場した伝説的ハプニング集団・ゼロ次元。その岩田信市が名古屋の町を何の目的もなく歩き回るといふパフォーマンスを繰り広げる。

「ハイレッドセンター・シェルター・プラン」1964年/18分/16ミリ 監督：城之内元晴
1964年1月26、27日に、帝国ホテル304号で行われたハイ・レッド・センター(赤瀬川源平も所属していたハプニング芸術集団)の歴史的なイベントの記録。オノ・ヨーコをはじめ56名ものアーティストが参加したと言われている。

高峰秀子

たかみねひでこ映画特集

成瀬巳喜男、木下恵介などの巨匠に起用された、日本を代表する女優・高峰秀子の作品特集。

会期／一日(木)～十一日(日)

観覧料／五〇〇円(大人)

四〇〇円(大学生・高校生)
三〇〇円(中学生・小学生)

●定員制、各回入替制。●チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。●福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の六十五才以上の方は半額。手帳の提示が必要です。

高峰秀子の映画デビューは早く、1929年彼女が5才の時、松竹映画「母」であった。

以来天才子役と言われ、舞台に映画にと活躍する。生来の明るく性格でスタッフの間でも人気者であり、特に歌手の東海林太郎やすでに大女優であった田中絹代に可愛がられている。

37年には松竹から東宝の前身であるP.C.I.に移籍。そこでもみんなに好かれる存在であり、この時つけられた「デコ」の愛称が大人になってまで彼女の呼称となる。「綴方教室」(37年)「小島の春」(40年)「馬」(41年)等、子役として着実に実績を積み重ねる。47年新東宝の発足とともに専属となり、中核女優として活躍する。「銀座カンカン娘」(49年)「宗方姉妹」(50年)等がこの時期の作品となる。50年からフリーとなり「カルメン故郷に帰る」(51年)に出演、以後「二十四の瞳」(54年)「浮雲」(55年)等、日本映画史に残る傑作に次々と出演する。特に木下恵介監督と成瀬巳喜男監督に重用され、50年代、60年代にかけて大女優として活躍する。55年には木下恵介監督の助監督だった松山善三と結婚。

その他代表作として「稲妻」(52年)「喜びも悲しみも幾歳月」(57年)等がある。「衝動殺人」息子よ(79年)を最後に女優業を宣言している。

天才子役が大女優になった例は日本映画では珍しい。特に日本映画の黄金時代であった50年代に、木下恵介監督と成瀬巳喜男監督の作品は彼女なくしてはあり得なかったかもしれない。女優としての演技の素晴らしさもあることながら、誰にでも好かれる明るく愛らしさが、単なる女優を越えた彼女の魅力となっているのである。

1日(木)14:00
4日(日)11:00
9日(金)14:00

カルメン故郷に帰る

東京でストリッパーをしているリリー・カルメンは、ダンサー仲間のマヤを連れて、里帰りをする。二人の派手な衣装と振る舞いに村は大騒ぎとなるのだが、カルメン達は自分たちは芸術家だと信じて疑わない。日本初の国産カラーフィルムによる総天然色長編映画。

1951年/35ミリ/カラー/86分/松竹 監督:木下恵介 出演:高峰秀子 佐野周二

1日(木)19:00
7日(水)14:00
10日(土)11:00

稲妻

終戦後の東京を舞台に、父がすべて異なる4人の子供と母との複雑な関係の家庭を描いた作品。金銭に執着する兄弟たちの醜さに嫌気がさして家を出る末娘を高峰秀子が好演し、成瀬巳喜男監督と高峰秀子コンビの傑作となっている。

1952年/35ミリ/モノクロ/87分/大映 監督:成瀬巳喜男 出演:高峰秀子 浦辺条子

2日(金)14:00
4日(日)15:00
9日(金)18:30

二十四の瞳

瀬戸内海、小豆島の分教場に赴任した若き教師・大石先生と、分教場の12人の生徒との交流の物語であり、木下恵介監督の代表作として、また日本映画の名作として評価は高い。映画は昭和3年から終戦の翌年までの18年間を描いており、大石先生を演じる高峰秀子が絶品である。

1954年/35ミリ/モノクロ/155分/松竹 監督:木下恵介 出演:高峰秀子 月岡夢路

2日(金)19:00
8日(木)14:00
11日(日)15:00

浮雲

主人公のゆき子は、戦時中インドシナで愛し合った富岡の帰国したら妻と別れるという言葉を信じ、日本に帰国後再び富岡のもとに現れる。自堕落な富岡は妻とも別れず、ゆき子とも再び関係を持つ。別れても別れられない、そんな男と女の関係を冷徹な視線で描いた、成瀬巳喜男監督の代表作であり、日本映画史上の名作と評価される作品。

1955年/35ミリ/モノクロ/123分/東宝 監督:成瀬巳喜男 出演:高峰秀子 森雅之

3日(土)15:00
8日(木)18:30
10日(土)15:00

喜びも悲しみも幾歳月

昭和7年に三浦半島の観音崎灯台に赴任した有馬四郎とキヨ子の夫婦が、激動の昭和史の中で、25年間に渡って灯台を守り続けていく物語。北海道の納沙布岬から五島列島の女島まで日本全国でロケして製作されており、「二十四の瞳」と並び多くの人に愛された木下恵介監督の代表作。

1957年/35ミリ/カラー/159分/松竹 監督:木下恵介 出演:高峰秀子 佐田啓二

3日(土)11:00
7日(水)19:00
11日(日)11:00

無法松の一生

1943年製作された阪東妻三郎主演による「無法松の一生」の再映画化。前作が戦争の影響により一部カットとなったことを不服とした稲垣監督が、まったく同じ脚本をカラー、ワイドスクリーンで蘇らせている。無法松を三船敏郎、吉岡夫人を高峰秀子が好演しており、阪妻の「無法松」と甲乙つけがたい作品となっている。

1958年/35ミリ/カラー/104分/東宝 監督:稲垣浩 出演:三船敏郎 高峰秀子

アーティストの記録

program 「タージマホール・トラベーズ」1973年/100分/16ミリ 監督:大野松雄
21(水)19:00 サウンド・パフォーマンス・アーティストとして現在も活躍している音楽家・小杉武久。彼を中心とする音楽集団「タージマホール旅行団」のヨーロッパ遠征を記録した貴重な映像。

文学

program 「杏子(ようこ)」1977年/80分/16ミリ 監督:伴睦人
22(木)19:00 古井由吉の同名小説(第64回芥川賞)を、「カレンダー・レクイエム」/黄色い銃声「黄色い季節風」などで時代の脚光を浴びていた伴睦人監督が映画化した異色の文芸作品。主演はファッション・モデルの山口小夜子。研ぎ澄まされた感性の持ち主である二人の姉妹の心の軌道を追うという、ストーリーらしきストーリーのない原作に果敢に挑戦した意欲的な作品。

劇映画の試み

program 「空、みたか?」1972年/102分/35ミリ 監督:田辺泰志
21(水)16:30 出演:吉沢健、吉田日出子、殿山泰司ほか
24(土)11:00 60年代から70年代初めにかけて思春期を過ごした一人の男の年代記を、「性」にのみ焦点を当てて描いた異色の青春映画。学生運動が高揚した時代に、何ら確固たる意志を持とうとせず流されていく男の物語。

解体する映画

program 「眠れぬ」1976年/98分/16ミリ 監督:若佐寿弥
21(水)14:00 出演:根岸とし江、吉行和子ほか
23(金)19:00 三つの世代の三人の女優が、彼女たち自身を演じるというトリッキーなオムニバス映画。中原中也の恋人であった長谷川泰子本人も登場する。他に文芸批評家の秋山駿、青山二郎らが共演。脚本は現代詩人・佐々木幹郎。撮影は田村正毅。

上映機会を失い、ビデオ化もされず、衛星放送でも採り上げられそうにない、そうした映画がどのくらい残されているでしょうか。その中には、公開当時は若者を中心に熱情的に支持され、ジャーナリズムでも高い評価を得ていた作品が少なくありません。

では、なぜ観られないのか?それは、そうした映画の多くが、大手配給会社の手による商業映画ではなく、自主映画に近い製作形態であった為です。それゆえ、その当時も、実際にはごく限られた場所でしか上映されず、一般の観客の目には触れていないのです。

もはや、文化の記憶の中には存在しない映画。タイトルだけは聞いたことがあるが誰も観たことがない映画。幻の傑作。芸術映画。アートフルムービー。

今回の企画では、ミニシアターも盛んではなく、ビデオも普及していなかった時代、1960年代から70年代に的を絞って、幻の傑作のなかでも、とりわけ芸術性の高い作品を中心に上映します。同時に、当時の若者文化を非常に分かり易く伝える記録映像や、アーティストの記録なども紹介します。各々、作家自身若しくは保管者から提供された貴重な作品で、めったに観る機会のないものばかりです。



ハイレッドセンター・シェルタープラン



空、みたか?

サイレント映画 弁士・楽団付き上映「瀧の白糸」VOL.5

懐かしの無声映画を弁士・楽団付きで上映するシリーズ企画の5回目。今回上映するのは巨匠・溝口健二のサイレント期の傑作「瀧の白糸」。'99年に復元された最長版を使用しての、日本初の活弁付き上映。

会期：3月25日(日) 14:00

観覧料：1,000円

(往復ハガキによる申し込みが必要です)

※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。
※障害者及び高齢者割引はありません。
※ホール開場及びチケット販売は13時より。

申し込み方法

往復ハガキに郵便番号、住所、氏名、電話番号、「瀧の白糸観覧希望」と記入の上、下記住所までお申し込み下さい。応募多数の場合は抽選となります。応募締め切りは3月15日(必着)まで。お一人様ハガキ一枚で応募してください。

〒814-0001

福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館 映像資料課宛

復元された最長版「瀧の白糸」について

巨匠・溝口健二監督のサイレント時代の傑作として名高い「瀧の白糸」は、作品の一部が欠落した不完全なプリントしか残されていない。しかし今回上映する「瀧の白糸」は、1999年に東京国立近代美術館フィルムセンターが現存するいくつかのプリントを比較対照して、可能な限りの復元をした「最長版」である。まだいくつかの欠落場面はあるが、現在我々が見ることのできる最もオリジナルに近いものである。

フィルムセンターによる復元以前には、概ね二つのバージョンの16ミリ版「瀧の白糸」が存在していた。フィルムセンターやマツダ映画社が所有する「関東版」には、ラストで白糸が自殺するシーンなどが欠落していた。一方、京都文化博物館や大阪の共和教育映画社が所有する「関西版」には、白糸の自殺シーンなど「関東版」にないいくつかのシーンが残っていたが、全体の長さは「関東版」より短いものだった。また「関東版」「関西版」いずれの16ミリも状態が悪く、とても復元に適するものではなかった。

「最長版」の復元が可能になったのは活動弁士として知られる故・谷天朗氏のフィルムコレクションがフィルムセンターに寄贈されたことによる。コレクションの中に既存のプリントより遙かに状態の良い「瀧の白糸」(16ミリ)が含まれていたのだ。但し全体の内容は「関東版」とほぼ同一であり、やはり白糸の自殺シーンなどは欠落していた。

この谷氏寄贈の状態の良いプリントをベースとして、欠落しているシーンを「関西版」から補い、「関西版」でも補うことのできない部分を字幕で補足するなどして、35ミリへプロアップされたものが、今回上映する「瀧の白糸」なのである。

上映作品

瀧の白糸

1933年/35ミリ/モノクロ/サイレント/102分/入江プロ
監督：溝口健二 原作：泉鏡花
出演：入江たか子 岡田時彦

弁士：澤登翠 (さわとみどり)

東京都出身。故松田春翠門下。弁士としてのキャリアはすでに25年以上であり、邦画、洋画、時代劇、現代劇と多彩なレパートリーを持つ。日本国内だけでなく、海外での公演も多く、弁士の存在と「伝統話芸・活弁」を伝える貴重な存在として活躍している。95年日本映画批評家大賞ゴールデン・グローリー賞、2000年山路ふみ子文化財団特別賞等を受賞している。

楽団：カラー・モノトーン

指揮&三味線：湯浅丈一 ピアノ：村岡貞彦
ヴァイオリン：小杉まりさ
フルート：鈴木真紀子 太鼓：足立克己
(メンバーは変更になる場合があります。ご了承下さい。)

水芸の芸人である瀧

の白糸は、旅興行先で知り合った学生・村越の性格と将来性に惚れ込み、村越に法律を学ばせるために仕送りをする。しかし月日がたち瀧の白糸も次第にゆとりがなくなってくる。そんな時苦心して借りた金を奪われ、逆上した瀧の白糸は高利貸しを殺し、お金を奪ってしまう。捕らわれて法廷に立つ瀧の白糸の前に現れた検事は、出世した村越だった。



INFORMATION お知らせ

シネラNEWS送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしておりますが、現在お申し込みの方は今回の3月号で完了しました。引き続き平成13年4月号～平成14年3月号までの購読を希望される方は、郵便切手(90円×12ヶ月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。継続のお申し込みをお待ちしております。

宛先：〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館 映像資料課

ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影されたビデオ(Hi8)や各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄、デジタルビデオの編集は不可)
※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

新収蔵アジア映画のお知らせ～あの素晴らしい感動をもう一度～

福岡市総合図書館では、アジアフォーカス・福岡映画祭と連携して、良質のアジア映画を収蔵しております。12年度も昨年9月の同祭で上映された下記の作品を収蔵いたしました。上映企画に応じて、順次シネラで上映いたしますので、楽しみにお待ちください。

民族間の戦いを少女の眼から問う「サロージャー」(スリランカ)。
高校生志願兵をととして、愛国心をテーマにした「少年義勇兵」(タイ)。人と人の情に支えられる遊牧生活を描く「愛のさだめ」(モンゴル)。故郷に残された老夫婦を描き、今日的な問題を扱った「悲哀」(インド)。他に、「スニーカーの少女」(イラン)、「ささやき」(イラン)、「ムロアミ」(フィリピン)、「天馬茶房」(台湾)、「沙河悲歌」(台湾)、「最後の舞」(インド)、「河は流れる」(インド)。



愛のさだめ



サロージャー

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

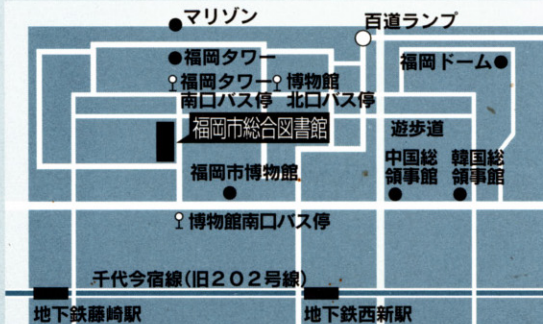
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>

1	木	14:00 カルメン故郷に帰る	19:00 稲妻	
2	金	高 14:00 二十四の瞳	19:00 浮雲	
3	土	峰 11:00 無法松の一生	15:00 喜びも悲しみも幾歳月	
4	日	秀 11:00 カルメン故郷に帰る	15:00 二十四の瞳	
5	月	休館日		
6	火	子 休映日		
7	水	映 14:00 稲妻	19:00 無法松の一生	
8	木	画 14:00 浮雲	18:30 喜びも悲しみも幾歳月	
9	金	特 14:00 カルメン故郷に帰る	18:30 二十四の瞳	
10	土	集 11:00 稲妻	15:00 喜びも悲しみも幾歳月	
11	日	11:00 無法松の一生	15:00 浮雲	
12	月	休館日		
13	火	休映日		
14	水	カ 14:00 竜馬暗殺	19:00 三里塚 辺田部落	
15	木	メ 14:00 さらば愛しき大地	18:00 ニッポン国古屋敷村	
16	金	ラ 14:00 旅するバオジャンフー	19:00 さらば愛しき大地	
17	土	マ 11:00 竜馬暗殺	15:00 SELF AND OTHERS/わが愛北海道	
18	日	田 11:00 Helpless	14:00 対談	15:30 路地へ
19	月	村 休館日		
20	火	正 11:00 Aプログラム	13:30 Bプログラム	16:00 Cプログラム
21	水	穀 14:00 Gプログラム	16:30 Fプログラム	19:00 Dプログラム
22	木	60's 14:00 Bプログラム	16:30 Cプログラム	19:00 Eプログラム
23	金	70's 14:00 Dプログラム	16:30 Eプログラム	19:00 Gプログラム
24	土	ア 11:00 Fプログラム	13:30 対談(参考上映:橋・む)	16:00 Aプログラム
25	日	イト 14:00 サイレント映画弁士・楽団付き上映VOL.5「瀧の白糸」		
26	月	フル 休館日		
27	火	ム 休映日		
28	水	ビー 休映日		
29	木	ト 休映日		
30	金	の 休映日		
31	土	全 月末休館日		



交通アクセス：当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄：西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス：天神～都市高速経由～福岡タワー南口

(所要時間 昼間で約20分)

博多駅～都市高速経由～福岡タワー南口

(所要時間 昼間で約25分)

福岡タワー南口バス停から徒歩3分

いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。

お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

編集雑誌

今月のシネラは年度末企画。「高峰秀子映画集」として1950年代の劇映画を、「カメラン田村正毅」に焦点を当ててドキュメンタリー映画を中心に、そして「60's～70's アートフル・ムービーの全貌」と銘打って60年代から70年代の実験的映像作品を上映します。そして年度末恒例となったサイレント映画の活弁付き上映は、溝口健二監督の「瀧の白糸」です。この機会にいろんなジャンルの日本映画をぜひお楽しみ下さい。(M・Y)